

## おわりに

その後の経過ですが、愉喜子は人工弁を入れる必要がなく、弁形成術がうまくいったので、ほぼ普通の日常生活が送れています。そして、結婚、出産もしました。残りの3人もそれぞれの世界で頑張っています。

ところが、本文の最後に「まだ第一者にはなれない」と書いた私が2019年10月下旬に第一者になりました。大腸癌が見つかったのです。しかも、大腸癌の中でも進行の速いタイプで、見つかった時点で肝臓に多発性の転移巣がありました。大いに悩むところですが、結論は変わりません。「もうおまかせしよう 結果を受けて立てばいい」です。

同年11月に入ってから、日に日に体調が悪くなり、血液検査の結果もどんどんひどくなりました。そのちようど悪くなりつつあった頃、この本の原稿を書き終えようとしていました。急いでまとめることをしながら、この調子で病気が進行していけば、この本が完成するのを見届けられないのではないかと心配しました。また、結果を受けて立つので、残された人生をどう生きようか、死ぬときはどういう形がいいかなどを真剣に考え、身辺整理を始めました。

ところが、ありがたいことに、腫瘍を外科的に切除することはできませんでしたが、人工肛門を造り、抗癌剤による治療を始めてからは、家族や親族や友人らの真摯な祈りもあって、病状は少しずつ快方に向かっています。

まだ、その治療は始まったばかりで、このまま順調に回復するかどうかはわかりませんが、どうやらもう少し生き永らえることができそうです。そして、この本が世に出るのも見届けられると思います。

最後に、この本を手にとってくださった読者の皆様方に感謝致します。

合掌

2020年1月20日

岡部 憲二郎